

# キラリと輝くむらびと

佐井村は「小さくてもキラリと光る村」と紹介されることがあります。この特集では、誇りをもって活動している方、夢実現のための挑戦や、むらづくりに奮闘する方など、佐井村の“ヒト”という魅力にスポットライトをあてて紹介していきます。

## せら まさし 世良 昌士

### プロフィール

1988年生まれ、北海道出身（磯谷地区在住）。平成29年から※漁師縁組事業で佐井村に移住し、一人前の漁師を目指して日々修行中。  
※漁師縁組事業……全国から移住者を募り、一人前の漁師になるまで最長5年間、村が生活費を支援する仕組み。



——どうして佐井村で漁師になろうと思ったんですか？

もともと第一次産業に興味があって、昔は酪農家のごとで働いていたりしてたんですけど、そういうの自分でやれたら面白いんだろうなって、雇われとかじゃなくて、自分の力でやれたらいいなって思ってた。そんなとき、たまにネットで佐井村の漁師縁組事業を見つけたんですね。ほんとになんか調べてたら偶然目に留まって、これいいなって応募した感じですよ。

——もともと魚釣りが好きだったとかでは？

実は、魚釣り自体そんなに好きってわけじゃなかったんですよ（笑）。やったことあるんですけど、別に……。

——佐井村に来てみて印象はどうですか？

海沿いに住んだことなかったの、いいなって。一応出身は北海道ですけど、湊の方には住んでいなかったの、海岸沿いに町が広がってる感じが最初はなかなか新鮮でしたね。

あとは言葉ですね。最初は何言ってるかなんもわかんなかったです（笑）。北海道と似ている言葉はあるんですけど、イントネーションが違う

し。今はだいぶわかるようになりましたけどね。

——未経験の漁業、やってみてどうでしたか？

漁師の仕事ってほとんど知らなかったの、いろいろ大変だなんてこともあれば、楽しいって部分もなんぼかあったって感じですかね。

——今までどんなことやってきましたか？

1年目は牛蒡で、ずっと網をやってました。2年目からは本村に移り、ウニとか採介藻とかやったりして、そこらちよこちよホタテの養殖とかもやりました。佐井の海でホタテの種取れるんですよ。ほんとのミリのやつですけど、それを獲ったりとか、漁協で買ってきた半成貝とか使っているいろいろやりましたね。

——これから挑戦してみたいことはありますか？

この前組合長から、今漁協でやっている「マツカワガレイ」の養殖をやってみないかって話があった。網はあるらしいんですよ、あと骨組みというか、いかだみたいな、海に浮いてるやつです。そこに放って餌あげてって感じなんですけど、それもこの冬でどうなるか見ものです。今

のところはうまくいっているみたいですよ。

もともと生き物を育てるのが好きだったし、冬場の収入源という意味でも期待が持てると思っっています。出荷サイズにまでなってしまうと、冬に出そうが何しようが、こっちで管理して出せるからいいんじゃないかって。しけて漁ができないとか、行っても釣れなくて油だけ使ってきたとか、それよりはいいと思いますね。

——最後にこれからの抱負をお願いします。

来年から村の支援はなくなりますけど、税金は去年ベースでくるので、それさえ凌げればやっていけると思ってますよ。なのでまずは1年なんとか過ごせるようにがんばります。



漁協で養殖されているマツカワガレイ